

2025年7月18日（金）開催 学術情報流通に関する連続セミナー 第9回
「学術論文の意義、評価、査読のあり方：若手研究者からの私見」
開催報告

2025年7月18日（金）13:30～15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」主催による、学術情報流通に関する連続セミナー（第9回）「学術論文の意義、評価、査読のあり方：若手研究者からの私見」を開催しました。

今回は、東京科学大学物質理工学院の望月泰英助教を講師に招き、講演では、行き過ぎた成果主義が研究者にもたらした負の側面を振り返りながら、学術誌の評価指標、オープンアクセスの影響、査読システムの在り方などについて、望月氏の実体験に基づいた率直な考えが述べられました。さらに、望月氏自身の研究キャリアや学生指導の経験を踏まえ、未来を担う若手研究者の育成において求められる心構えや、研究環境の在り方についても語られ、今後の研究支援を考えるうえで非常に示唆に富む内容となりました。

北陸先端科学技術大学院大学の小泉周副学長によるファシリテーションで行われた質疑応答では、対面およびオンラインの参加者から多くの質問が寄せられ、論文のオープンアクセス化の意義や、創造的な研究を育むための環境づくりなどをめぐって活発な議論が交わされ、講演内容への理解がさらに深まりました。

講演終了後に会場で開催されたアフターセッションには、対面参加者全員が参加し、講師を囲んで活発な意見交換が行われました。

■参加者数 218名（対面20名、オンライン198名）

■当日の様子



講演する望月助教



望月助教の講演に聞き入る会場参加者



アフターセッションにて活発に意見交換する会場参加者

■アンケート結果 回答数：95

○所属機関

国立大学：70、私立大学：15、公立大学：3、民間企業：2、国立研究機関・官公庁：2、その他：3

○職種

職員（図書系）：53、URA：18、教員・研究職：8、職員（研究推進系）：5、職員（事務系）：5、出版関係者：2、学生：1、その他：3

○セミナーは参考になりましたか

参考になった：66、まあ参考になった：27

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

図書館職員としてのポジションからの意見を聞くことが多いため、研究者側の本音（例えば OA の目的への認識の違い）を伺えたのが大変興味深かったです。ありがとうございました。

国立大学でも研究室秘書が潤沢でないのは驚いた。

評価軸や査読、OA の進め方など本質的な内容に踏み込む講演だったので、深掘りする議論の時間がもう少し欲しかった。

研究者・教員の話は何う機会がないので、とても新鮮でした。

望月先生の実感のこもった講義をお聞きでき、気鋭の若手研究者の方から見た昨今のアカデミアのあり方という視点を得ることができたように思います。どうしても普段は図書館としての視点で物事を考えてしまいますので、学術の主体たる研究者の方からのご意見が大変参考になりました。ありがとうございました。

講演者である望月先生のお人柄がわかる素晴らしいご発表内容で、ぜひ多くの学生、大学教職員に視聴していただきたいと思いました。大袈裟ではなく、日本の未来のアカデミアが救われるような気がします。先生の今後の大いなるご活躍を期待しています。

望月先生と直接会話してみたかったです。若手の方が持つ感性で新しい研究環境が確立していくことを祈念します。学術情報流通と直接的に関係してこなさそうに思われる今回のセミナーこそ、図書館の方々に研究者とは本来どういう立場であるか、という視点をもたらしたと思います。そのうえで図書館の方々が自分たちが高等教育機関という組織をどう形作るのか、俯瞰的な視点も持つようになるのではないかと思わせる、素晴らしい講演でした。

率直なご意見を共有して下さったことが非常に参考になりました。図書館とまったく視点が異なる考え方をされているということがわかり、今後協働していくためにも視点の違いを意識していかなければならないということを実感しました。

望月先生の発表はご自分の論文投稿の経験を踏まえながら、学生の動きや、世間の風潮などの分析へと多岐にわたり、図書館サービスをするにあたっての利用者ニーズを考えるためにも非常に参考になりました。理解しやすい内容でした。とても学生思いの先生であることもわかって、話に好感ももてて、もっと話が聞きたくもなりました。ありがとうございました。

図書館員とは異なる研究者の視点が、たいへん興味深かったです。

現在、論文に携わるすべての方々に視聴してもらいたいと思いますが、過去に関わった方や、今後、大学や研究で必要となる若い方々にもお勧めしたい内容でした。

論文は伝える相手を想定して書いているとのこと、OA 費は広告費だと考えられていることなど、率直なお話で、とても参考になりました。

オープンアクセスの意義は他コミュニティにも見てもらえることだという意見に対し、望月先生が「専門家でないとうわからないと思うのでその視点はなかった」と回答されたのが印象に残っています。ハゲタカジャーナル論文の質の低さに対する指摘とも呼応する視点で、確かに分野外の人間が学術論文の誤謬を指摘するのは至難です。出版関係者として、改めてジャーナルの正確性・厳密性への信頼を維持する重要性を認識しました。直接研究者の方の考えを伺うことができ、大変面白かったです。ありがとうございました。

研究者を縛ろうとして研究成果が低調になってしまった現状を、日本の社会の変化と重ねてお話しされた前半部分が特に印象に残った。

図書館が行う研究サポートの方向性を考えるうえで、研究者の方の声を直に聞いたかったので、この企画はとても役立ちました。ありがとうございました。

研究者の思いを聞ける機会はあまりありません。今回のセミナーは今後の業務に取り組む姿勢を見直すきっかけになりました。良い企画をいただき、ありがとうございました。

素晴らしい内容のセミナーで非常に勉強になります。同時に、自分から見ると専門家の方々向けの内容で、専門用語の理解など少し難しいとも感じました。一般人が利用する時のハードルを下げる様な情報やセミナーがあると自分としては助かると感じました。また参加させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

様々な立場の方の学術情報についてのご意見を拝聴できて、また、オンライン開催で遠方からも参加しやすく、大変ありがたいセミナーです。同じことについて異なる立場からでは見えることや考えは異なることを実感することもあります。そういった情報の共有が大切だと思います。

望月先生の温かなお人柄と、深い思索に裏打ちされたご講演に大変感銘を受けました。また、通常は専門家が個別に語ることの多いトピックを、一研究者の視点から幅広くご紹介いただいたことで、研究者が日々感じている課題について、より深く理解することができました。

ありがとうございました。勉強になりました。

本日は、貴重なお話を拝聴させていただき、ありがとうございました。

この度は貴重なお話をお聞かせいただきまして、ありがとうございました。

貴重な機会をご提供くださり、本当にありがとうございました。大変参考になりました！

大変面白いお話をありがとうございました。

誠実で真摯なお話に心打たれました。ありがとうございました。

若手の研究者のお話を聞く機会がこれまでなかったので、大変勉強になりました。理系だけでなく他分野の若手の方のお話を聞いてみたいです。

査読を頼む側、頼まれる側の話なども伺う機会があればと思います。